

## Ⅱ 利 用

2012年度の利用状況について、報告する。

### 1. 加速器運転及びビーム供給状況

加速器運転時間総計は 2,155.4 時間であった。内訳は、表 1 に示すとおりビームラインへの「ビーム供給」、加速器の高度化、安定化研究を行う「マシンスタディ」、そして「加速器故障」から成る。その他、加速器の設備保守・点検等のための「シャットダウン」の時間数も表 1 に併せて示す。

また、図 1 にビーム供給時間の月間の推移を示す。

表 1 2012 年度加速器運転状況

項目	時間
ビーム供給	1,585.5
マシンスタディ	525
加速器故障	44.9
シャットダウン	525

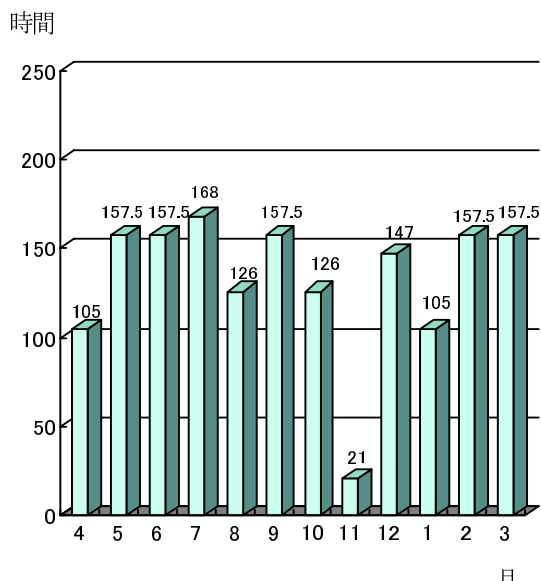


図 1 2012 年度ビーム供給時間

### 2. ビームラインの状況

6本の県有ビームライン(BL07、BL09A、BL10、BL11、BL12、BL15)で利用実験が行われた。県有ビームラインの外部利用及び内部利用を合わせた利用延時間は、前年度比約 2.4%減の 4,798.5 時間であった。

図 2 に県有ビームライン毎の利用延時間を示す。

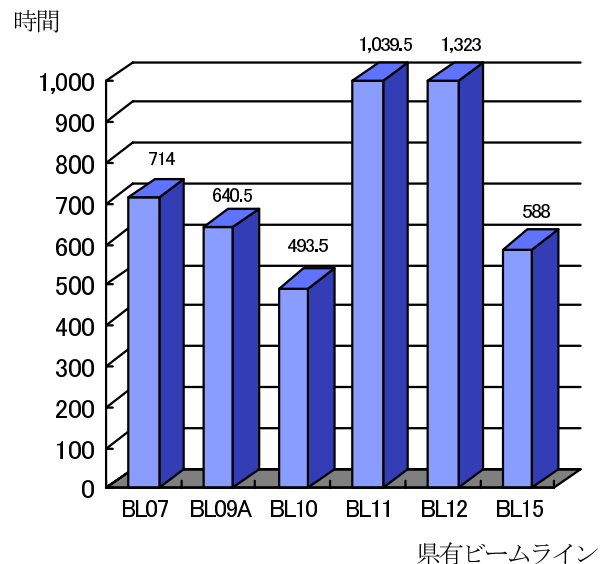


図 2 2012 年度県有ビームライン毎の利用延時間

また、3本その他機関ビームライン(BL13;佐賀大学、BL18;株式会社ニコン、BL06;九州大学)で利用実験が行われた。

### 3. 利用状況

県有ビームラインの産学官による外部利用時間は 3,496.5 時間、利用件数は 166 件であった。

表 2 に利用支援を行う利用区分を示す。利用区分は、「一般利用」、「公共等利用」、「トライアルユース」、「探索先導利用」及び「パイロットユース」等の県委託費で行う利用に加えて、「地域戦略利用」(2012

年度～；「佐賀県新産業・基礎科学課単独事業」による利用)、「先端創生利用(長期、短期)」(2009～2012年度；「文部科学省先端研究施設共用促進事業」による利用)等の外部資金を用いた利用を設定した。また、「一般利用」、「公共等利用」の初回利用に限定して無料の「トライアルユース」を実施した(「先端創生利用」のトライアルユースとは別途)。

特に、「探索先導利用」は、2012年度に新たに設定した利用区分であり、地域の活性化に結びつく先導的課題(Rタイプ)や基礎科学の領域に属する探索的課題(Fタイプ)の利用支援を実施した。また、「先端創生利用(長期タイプ、短期タイプ、長期トライアルユース、短期トライアルユース)」は、2009～2011年度に実施した「長期利用」の内容を変更したものであり、先端産業に資する実用化及び基盤技術の高度化に関する課題を優先的に採択することとした。

なお、2011年度で終了した「ナノテク利用」(2007～2011年度；「文部科学省先端研究施設共用イノベーション創出事業ナノテクノロジー・ネットワークプログラム」に該当する利用課題の一部にも対応可能とした。

また、九州大学との共同研究として、科学技術振興機構に採択された新規太陽電池材料の開発を行うALCA事業を継続実施した(2010.10～2014.03)。

表2 2012年度利用区分の概要(外部利用)

利用区分	概要
一般利用	主に企業利用を想定(学官可) 成果非公開可 有料
公共等利用	大学、公的研究機関に限定 成果公開 有料
トライアルユース	一般利用、公共等利用を対象 成果公開 無料
地域戦略利用	佐賀県試験研究機関の利用 成果公開 有料
探索先導利用	産学官の利用可(F、Rタイプ) 成果公開 有料
先端創生利用 (文部科学省補助事業)	産学官の利用可(長期、短期タイプ) 成果公開 有料 産の利用のみ(長期、短期トラ

	イアルユース) 成果公開 無料
パイロットユース	当研究センターの要請で実施 成果公開
共同研究	機関間の契約に基づく研究

表3に利用状況(利用課題数、利用時間)の概要を示す。また、図3に産学官の利用時間の割合を示す。

表3 2012年度利用状況(外部利用)

利用区分	利用課題数(件)	利用時間(時間)
一般利用	83	1480.5
公共等利用	16	210
地域戦略利用	13	273
探索先導利用	29	567
先端創生利用	22	766.5
パイロットユース	2	73.5
共同研究	1	126
計	166	3496.5

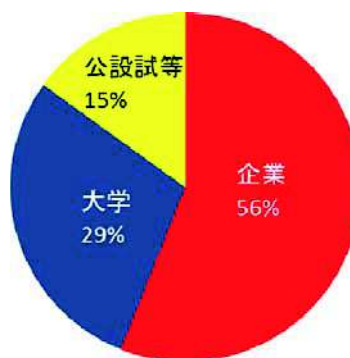


図3 2012年度産学官の利用割合(外部利用)

#### 4. 利用促進

##### 4-1 利用推進協議会

利用推進協議会は、産学官が連携して当研究センターの利用を推進することを目的に2004年11月に発足した。主に協議会のネットワークを通じて、利用課題募集の情報、各種セミナー及び講習会の開催情報等をメールにより提供した。

表4に2012年度末の会員数を示す。

表4 会員数 (2013.3.31 現在)

属性	会員数
企業	145
大学	231
その他	61
計	437

#### 4-2 利用相談等

企業、大学及び公設試験研究機関等からメール、電話及び来所等により多くの利用相談が寄せられ、利用コーディネーター（研究・技術担当副所長）を中心に随時相談に対応した。

また、実験終了後に実験責任者からビームタイム利用記録兼アンケート用紙を収集し、その要望を基に利用改善に努めた。

さらに、当研究センターの利用サービスの詳細をまとめた「利用の手引き 2012」を配布した。

#### 4-3 講習会等

当研究センターでの利用促進を図るため、実施した講習会は次のとおりである。

8月に若手研究者を対象にシンクロトロン放射光の基礎から応用までの習得を目指した SAGA・LS サマースクール 2012 を実施した。

なお、詳細は、V章で述べる。